答 第5期介護保険料の基礎となる推計ワークシートも8月中旬配布予定であったものがまだ配布がされていません。介護保険料の上昇緩和策として国から示されている情報としては、都道府県に設置された財政安定基金が平成22年度末で125億500万円となっており、市町村拠出分は一人当たり影響額は約40円となります。また、市町村の介護給付費準備基金を取り崩し、保険料の軽減に活用しようとすると月額一人当たり約70円となります。今後は、国からの情報が遅延していますが国からの情報提供に基づき介護保険審議会に審議をお願いしていきます。

市民の健康管理について

柳沢 英希 議員

問 幼児や高齢者の熱中症対策、今後の取組み。各小中学校における熱中症対策は。

答 いきいきクラブを中心に、市内で研修会を実施。今後は民生委員の方に、一人暮らしの高齢者を訪問する際に、熱中症予防パンフレットを配布して頂く予定。また、幼児には引き続き『こんにちは赤ちゃん訪問』の際や健診事業の中でも周知、啓発して参ります。各小中学校では、緊急時用に保健室に保冷剤やドリンクを保管。携帯型熱中症計の活用や保健便りで保護者への啓発活動を実施。

問 各小中学校に扇風機の設置は。

答 来年6月から普通教室で使用できるよう準備してまいります。

防災行政について

問 津波対策用防災マップの中身と、全国瞬時警報システムの活用について。

答 現在地の高さが日常より把握できるよう、電柱や看板に標高サインを設置します。検討中の同報系防災行政無線の整備に合わせ、全国瞬時警報システムとの接続を予定。防災無線の整備に関しては、屋外拡声器、コミュニティーFMなど無線以外の通信手段も含め効果的な整備を検討中。

問 職員の育成について

答 無線操作は、どの職員でも対応できるようマニュアルの作成と、各訓練においても、担当以外の職員にも操作できるよう整えていきます。

問 幼保育園の乳児の移動手段は。

答 乳母車等は3歳児未満を全員乗せる台数があり、訓練も実施しております。

問 各市町村との応援協定は。

答 衣浦5市においては締結済みであるが、内陸部とは今後進めてまいります。

市有建築物の老朽化対策について

磯田 義弘 議員

問 高浜市有建築物の耐用年数はあと何年残っていますか。

答 耐用年数を経過した建物5%、残10年以下9%、残20年以下30%、残30年以下25%、残40年以下19%、残50年以上12%です。

問 高取幼稚園と吉浜幼稚園の耐用年数が過ぎているが、二つの幼稚園などへの対応は。

答 両園の建物の状況は十分に認識、把握されており、今後の子育て施設のあり方について整備計画が示されております。

問 すべての市有建築物を市の耐用年数で建替えると、資金は毎年いくら位必要ですか。

答 総額約390億円。毎年約2億円～約13億円必要です。

問 老朽化対策の基金などの計画は達成できますか。

答 公共施設等整備基金を平成25年度末迄に8億円積立てる計画です。更新等の費用などにつきましては、公共施設のあり方検討事業で明らかにいたします。

問 長寿命化等工事で、耐用年数を延長し、建替え費用を分散する事は有効と思いますか。

答 限られた財源の中で有効な手法であり、必要かつ重要な視点です。

問 市が考える民間資金等活用法「PFI」は、公共投資を安易に促進しませんか。

答 PFIの手法は万能ではないと考えております。

問 財政改革とPFIについていかがお考えですか。

答 PFIは、選択肢の一つとしてとらえていきたい。

問 検討後、公共施設のあり方をいつ市民に示せますか。

答 公共施設白書を平成24年1月を目途に、市民参画のもと策定します。